

## 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

## 【竹の宿】

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	分かりやすい理念を掲げ、理念を心掛け、教え合う体制を作っている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑や隣接施設で行われるボランティア行事への参加や地域の行事への参加で交流していたが、いずれも現在は中止となっている。	面会については、隣接施設で再開していることもあり、11月より苑でも再開できるようにしたい。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議には、桑名市介護高齢課や地域包括支援センター担当者、家族代表、地域代表に参加頂き、サービスの実情を報告し、意見交換で出された助言等をサービスの向上に活かすよう努めている。	施設の裏山が心配というご意見が出た。実際に大雨等による夜間の避難が立て続けにあったこともあり、その時の様子なども家族に伝えていく必要がある。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に運営推進会議の場で事業所の課題について伝え、意見を求めている。	前回実地指導では大きな問題等は無かった。今後も協力関係を築いていく。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回、身体拘束についての勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知し、3か月に一度委員会にて検討会を行っている。「言葉による拘束」に繋がる言葉かけを行わないよう、教え合う体制を作っている。自由にユニット間の交流をする環境は作れていない。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束について教えあう体制が出来ているので信頼できる。注意事項、安全対策についての申し送りは重要。すべてを自由にするのは難しいが職員の都合だけで自由を制限することが無いよう努めてほしい。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止の勉強会、週1回のカンファレンスや月1回のミーティング、毎日の申し送りなどで常に注意と防止を呼び掛けている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止についての話や研修は地域包括支援センターが行うことも可能なので利用してほしい。認知症者の対応については、受け取る側の見方によっては虐待のように見えてしまうこともあるので難しい。

7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	実際に必要な情報は職員へ伝達しているが、予め制度について学ぶ機会は作れていない。「成年後見制度の相談」についての市の案内書は、苑玄関の見易い所に掲示している。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時の説明を行いながら疑問点に答え、入院時や制度の改定などによる状況の変化がある場合にも説明を行い同意を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の思いを汲み取る様に努めている。家族の来所時や電話で、意見や要望を聞く機会を設けている。個別の対応が難しく、運営へ反映できないこともある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	集団生活のため施設にはルールがある。その中でも反映はされているように思われる。個々の内容によっては運営に反映できないこともある。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週1回のカンファレンスや、月1回のケアミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設け、日常的にも管理者に言える状況を作り、必要に応じ法人会議にかけている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得の支援、勤務状況の把握、働き方改革への取り組み等を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の入れ替わりは利用者の混乱にもつながる。職員の定着のためには法人全体で、職場でのやりがいや働きやすい環境作りが必要と思われる。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修を受ける機会が確保され、法人外研修は、管理者や職員の希望に応じて参加している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員一人一人の力量を把握し、それぞれがスキルアップさせていけるよう、就業環境の整備と共に取り組んでいかなくてはならない。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	三重県地域密着型サービス協議会や地域で行われる研修会、または、活動に参加することで同業者との交流ができている。相互訪問等での職員同士の交流はできていない。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑を「生活の場」として、家庭的で楽しい雰囲気をお互いに大切にし、お互い助け合えるよう、出来ることはお願いしている。			

15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会話の中で個々の懐かしい話を話題にするよう心掛けている。面会や外出ができないため、懐かしい場所、馴染みのある風景等を映像で見て語らう機会を作っている。	面会や外出に替わるものとしてスライドショーやストリートビューを見ることで故郷を思い出してもらい、また馴染みがない場所でも旅行気分を味わってもらえた。		
<b>Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ゆっくりとお話しを聞く時間がなかなか持てないものの、生活の中で、「本人はどうしたいのか」を聞き取り、または、感じ取ることで、意向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別援助計画を作成し、週1回カンファレンスを行いモニタリングを実施。目標の達成度について話し合い、本人、家族の意向や職員の意見を個別援助計画に反映している。	本人の生活への意向や事業所への要望を伺う際には本人の様子を家族へ伝えている。アンケートでも要望が多かったこともあり、更に伝える機会を増やしたい。竹の子便りで様子が分かるので楽しみにしているとの意見があった。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者に何か変化があればその都度見直し、変化に対応したプラン作成に努める必要がある。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の様子やケアの実践は個別に記録し、申し送りやカンファレンスでその情報を共有しながら話し合っている。職員の気づきや工夫についても記録と情報共有に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	情報の共有は重要である。事実や職員の気づき等をしっかりと記録し申し送ることが大切。記録の書き方は個人の技量に左右されるところもあるため、書き方の研修も検討してみるのもよい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一時的に継続した医療の必要が生じた際の内科への通院支援を行っている。食欲が低下した方には家族、主治医との連携を密にし、栄養士に相談しての食形態の工夫や家族との連携により、食べる楽しみを少しでも続けられるよう取り組んでいる。	個別に食事内容を変えることは出来ないため、刻んだりブレンダーにかけたりして形態を変えることや、家族からの差し入れをもらうことで工夫している。苑でのおやつ作りのメニューや食事前の会話にも季節感を取り入れ食欲に繋げていきたい。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議参加者からの助言等を、防災や活動に生かせるよう努めているが、ボランティアの受け入れや地域行事への参加は令和2年(昨年)以降行っていない。	コロナ禍では難しいと思うが、災害時は地域の協力も不可欠なため、日頃から繋がりを持つ努力も必要。歯科医からの助言もありお口の健康教室のようなものを企画したい。ボランティア側からの問い合わせも受けている。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医を協力医に変更等の説明を入居時にしている。週1回協力内科医の往診がある。口腔や目の不調があった時は、本人や家族の治療への意向を聞き、協力医へ伝えている。その他の医療機関への受診は、医療間連携と家族の協力を得て行っている。			



22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入退院時、医療機関との書面と口頭による情報交換を行っている。また、居室の確保についての家族との相談、退院の見込みがついた時からの病院関係者や家族との情報交換、退院に向けての相談に努めている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入退院時に速やかに対応していただき家族への連絡も密にもらうことが出来た。 法人間に医療機関があることの強みを活かし、利用者や家族が安心できる支援を望む。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入居時や体調に大きな変化があった時に、本人、家族、主治医、管理者同席で、重度化した場合や終末期についての話し合いと意向の確認を行っている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	体調不良時にはその都度連絡をいただき対応してもらえた。重症化した際にも同様の支援がいただけたらと思う。 家族を中心に本人と共に意向の確認が行えている。今後 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の活用により、本人の意思決定の支援や意向の変化に対応していけたらよい。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	隣接施設や竹の子苑で行われる勉強会で事故や急変時の対応や搬送までの流れを学ぶ機会を作っている。職員が自信を持って行動する為、「実際に行動する訓練」は更に回数を重ねる必要がある。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	災害対応マニュアルを備え、年2回消防署員の指導の下、訓練を行っている。土砂災害を想定して、搬送方法の検討や備蓄品の見直しを適宜行っている。火災・土砂災害については「実際に行動する訓練」を行っている。	災害時に即役立つマニュアルとして、シンプルで漏れの無いものを作成し活用しているが、最終的には命を守ることが最重要視される。突発的に起きる地震に対する対応はさらに検討する必要がある。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	繰り返しの訓練は高齢者こそ必要と思われる。 地域性を考慮したマニュアル作りが必要である。 夜間時の職員配置等リストアップし、対応マニュアルを職員が熟知することが大切。激甚災害によりライフラインが止まることを想定しての訓練も BCP 策定の準備と共にしておく必要がある。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	職員自身が気付かない事もあり、気になる対応や言葉かけがあった場合には注意し合い、人格尊重やプライバシーの保護に努めている。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	慣れが生じると気にならなくなる時があるため、職員間で注意し合える環境作りに努めることが必要。トイレ介助の際には注意し、プライドを傷つけないように気を付ける。個々の違いに配慮しつつ、それぞれの状況に応じて待遇を変える時などは「公平な」判断が求められる。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	出来るだけ希望に沿う様に、個々の利用者のペースを保つよう配慮している。			

28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	三食とも法人の厨房で調理したものを苑で配膳している。テーブル拭き、自発的な下膳を利用者が行うこともあるが、殆どは職員が行う。食事前にメニューを伝えている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所時よりふつうとしており、食事を楽しむことが出来ているように思う。昼食時だけでも、時には場所を変えてみたり、何か変化があると感じる。後片付けやテーブル拭きなど役割をもって取り組んでもらうことで、家事をしたい方の充実感や、気分転換につながる。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の様子観察、摂取量の記録をしている。食前の口腔体操、歯科に相談しながら噛む力の改善、ムラなく食べる為の声かけや食形態の工夫をし、個々の好みとタイミングに合わせた水分提供をするよう努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の力に応じ、声かけ、歯磨き、口腔清拭、磨き直し等の介助を行っている。自分で行える方にも、「できているか」の見守りをするよう努めている。歯科からの助言を受けケアの実践に活かしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介助を嫌がる方もいる中で大変ではあるが、口腔内の確認を兼ねて引き続き支援していく。歯科からの助言もあることから、出来ることを実践して欲しい。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の記録から、個々に合わせた声かけ、誘導等を行っている。また、トイレの場所を分かり易く表示し、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘については、原因別の個々の対応を検討し、主治医とも相談している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	尿漏れバットをこまめに取り変えてもらっているようでありがたい。夜間の排泄ケアも工夫して実践されている様子がうかがえる。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1人につき、週3回程度入浴できるようにしている。時間帯は決まっていますが、その中で本人の体調やその日の気分に合わせ、入浴の順番を変更したり、入浴日を変えるなどしている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はなるべく活動的に過ごせるよう、手作業や運動の機会を作りながらも、一人一人の体調や希望に合わせ、適度に居室で休んだり、ソファでくつろいで過ごせるようにしている。心穏やかに眠りに就けるよう職員は関わり、就寝時間は一人ひとりのペースを大切にしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化があった場合は薬との関係も意識し、薬情報で確認している。分からないことは、医師、看護師、薬剤師に相談し、指示を仰いでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化の訴えが難しい方もいると思う。確実な服薬の確認と共に症状の確認をして、体調に気を付けてもらいたい。

35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	持てる力に応じた役割や楽しみ事を続ける支援は日々行っているが、一人一人の生活歴を活かすという点では不十分となっている。	家族アンケートの内容を参考に個別に対応を考えていきたい。みんなで楽しそうに過ごしている様子を窓越しに拝見した。自発的に行動しない人でも周りに合わせることで、活動の幅が広がっていくのは良いこと。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍の中では、外出は通院と花見ドライブのみとなっている。隣接施設駐車場までの散歩や外食支援は現在は行っておらず、それに代わる外出を計画している。1階テラスに出る機会は作っている。	外出についての許可はまだ出ていないため、現在は必要時のみとなっている。買い物を疑似体験できるようなイベントを計画してみたい。(例えばクーポンを使って数種類の中からその日のおやつを選び買ってもらえるような体験)		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人でお金の所持はしておらず、苑内で使う機会もない。外食支援行事で外出した際、品選びや買い物職員と一緒に行うが、コロナ禍の影響でできていない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	携帯電話は自分で管理できる方に限って所持可となっている。手紙の返事を書く支援は本人の希望を聞いて行っている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	リビングには利用者と職員が一緒に作った季節毎の壁画を飾っている。温かいうちに食事が届き、職員が盛り付けを始めることで、食器の音や料理の香りがリビングに広がり、食事の時間が近いことを感じてもらっている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	季節感を取り入れた居心地の良い空間作りに今後も努めて欲しい。居心地の良さは入居者の笑顔や落ち着きに表れてくると思う。	

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	見え難さや聞こえにくさ、発語の困難さ等を含め、個々のコミュニケーション方法に合わせた意向の聞き取りがされ、それぞれの意向に沿った対応がされている。			
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	意欲に繋がりにくい場合や個別の対応が難しい場合があるものの、本人への聞き取りや家族から聞いた情報などから、生活歴や趣味等が把握され、普段の会話やケア、活動、行事に活かす努力がされている。			



42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調変化に応じて適切なケアや治療を受けることができています。また、事故防止と自立の両面から、生活環境への配慮がされている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「出来ない」ではなく「出来るように」工夫していくことに努めて欲しい。「事故防止と自立」の視点からの支援が必要。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	トイレや就寝、やりたいこと、過ごしたい場所など、その時の体調や希望に合わせて、自分のペースで生活ができています。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	写真、ぬいぐるみ、お気に入りの衣類、時計や櫛など細かなものは身近にあり、安心を得る様子が見られる。家具や棚の持ち込みは殆どない。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍のため外部の人は入室できず、評価に当たっては部屋の中の確認が出来ていない。本人のそばにがあると安心できる物や馴染みの物などを大切にもらえるよう、家族への理解を得るように働きかけていくことも必要。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	コロナ禍の影響で外出ができていない。本人の希望によって、テラスに出ることや、苑内行事に参加することができています。	今後地域行事の案内などを参考にして参加を検討していきたい。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	困難なことは職員の助けを借りながら、一人ひとりの意欲と体調に合わせて、家事的な作業や趣味的な活動に参加ができています。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	利用者同士や職員との会話の機会を持ち、楽しむことができています。一人ひとりの体力や気力にあわせた活動への参加ができています。コロナ禍で生活の変化が乏しいためか、意欲が低下気味。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人が出来ることは今後も続けていってもらえるように支援をして欲しい。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で交流ができていない。	地域との交流は出来ていない。入居者や職員との関わりのみとなっている。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑に居ること、職員や利用者同士で過ごすことに安心感を得ている様子が見られる。感染症の予防等を図りながら、家族や地域との交流方法を工夫していく必要がある。	入居に不安を感じ帰宅願望やストレスを感じていた入居者も、職員との関わりの中で少しずつ落ち着いてきた様子が見受けられる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍が長引くが、家族の施設見学や入居者の外出は今後必要だと思われる。家族からの気配りを生活の中に生かしていけるように工夫していく。